

テレビっ子から学びっ子へ

学校教育課では旭市PTA連絡協議会と連携し、小中学生の「確かな学力」を育むために『ストップ・ザ・ＴＶタイム！テレビっ子から学びっ子』をスローガンに掲げ、家庭学習の習慣化を推進しています。

今回は、５月に各学校で実施した家庭学習アンケートの結果をお知らせします。

家庭学習の時間は、調査開始年度から比較すると、全ての学年において５分から２０分の伸びが見られます(表１)。また学年が上がるに従って、学習時間も順調に伸びています(表２)。学校や家庭で、家庭学習の習慣化を働き掛けた効果が表れたものです。

一方、テレビの視聴時間は、どの学年も１日平均７０分から１００分程度でした。テレビ、ゲームなどの時間も昨年度と比較すると、増加の傾向が見られました。

家庭学習の習慣化については、全体的な傾向を踏まえた上で、個別に対応していく必要があります。

子どもたちがテレビっ子から学びっ子に変わるよう各学校と各家庭で連携を図っていきます。



表 1

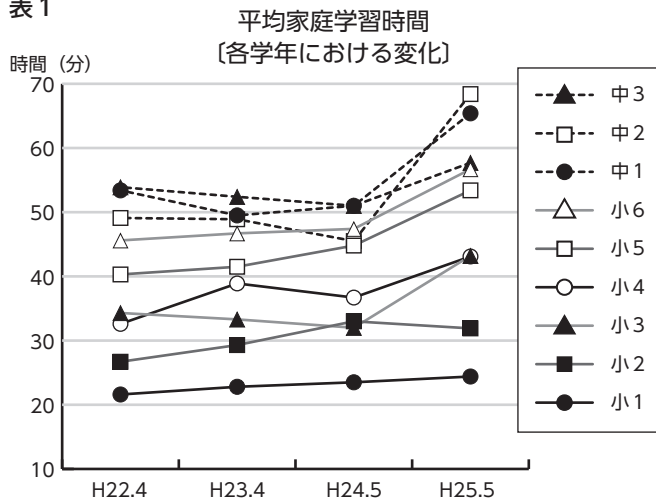
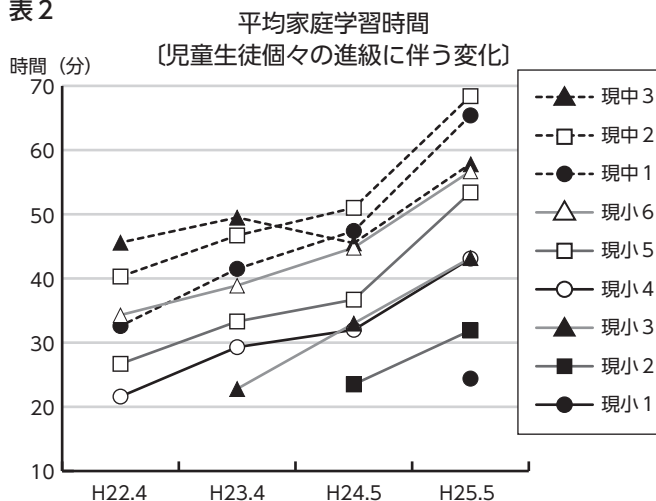


表 2



教育委員コラム



自分の足で登った 男体山

教育委員会委員長職務代理者
石井 勝也

7月、日光白根山に登ろうと、友人と出掛けました。3日間の行程の2日目に、白根山登山の予定が残念なことに朝から雨。せっかくの眺望の山が雨ではということで、日光の社寺を回ろうと、日光行きのバスに乗りました。ところが、途中で雨はやみ、中禅寺湖が見える辺りでは空も少し明るくなってきました。そこで、近くの男体山に登ろうということになり、二荒山神社の前でバスを降りました。

男体山の頂上が近くなり、勾配がさらにきつくなってきた所で、疲れて泣いている幼稚園年長の男の子と母親がいました。「頑張れよ」と声を掛けて登り続けましたが、何となく気に掛かり、下りる人の何人かに男の子に声を掛けてくれるように頼みました。

頂上では雲が取れ、中禅寺湖がよく見えました。しばらくして母親と男の子が登って来ました。男の子はにこにこ、母親もほっとした顔でお礼を言ってくれました。一緒に登った父親と男の子の弟は、先に登り終え、少し下で母親と男の子が下りてくるのを待っているのだそうです。私たちが頂上でゆっくりしている間に、母親と男の子は下りて行きました。そして、私たちが下りる途中、元気に話し合う親子4人がいました。

山歩きをしていると、学校の集団登山や親子の登山者に出会います。体験は子どもにとって大きな思い出。特に、泣きたいくらい厳しい歩きをして、素晴らしい眺めに会えた山登りは――。